

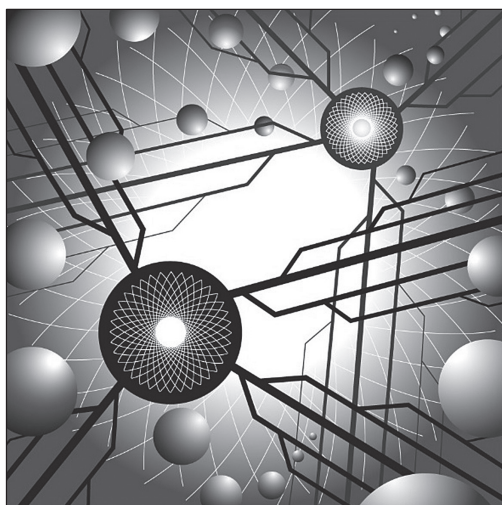
# 「技能と技術」誌表紙デザイン 最優秀賞受賞者インタビュー

## 「技能と技術」誌 編集事務局

### 1. はじめに

読者の皆様，今号の表紙デザインはご覧になりましたでしょうか？あまり気に留めていない方も多いかもしれませんが，新しいデザインに変わりましたので，ぜひ，ご覧になってください。

この表紙デザインですが，本誌編集事務局から業者へ制作依頼しているものではなく，全国の職業能力開発施設および大学，工業高校，専門学校等のデザイン系学科の方を対象として公募しております（平成32年用の表紙デザイン募集については，本誌第2号（6月発行）に掲載予定）。そして，応募いただいた作品の中から優秀な作品を選出し，その中で「最も優秀」と評価された作品が，翌年に発行される本誌の表紙を飾ることになります。



平成31年「技能と技術」誌表紙デザイン  
最優秀賞作品

今年度の表紙デザイン選考会（平成30年10月開催）では，長野県長野技術専門校の齊藤滯亜さんの作品が最優秀賞に選出され，本誌第4号（平成30年12月発行）にてお知らせしたところです。

さて，12月某日，晴天に恵まれた中，本誌編集事務局は同校を訪問し，授賞式と齊藤さんへのインタビューを行いましたので報告します。

### 2. 長野県長野技術専門校画像処理印刷科

同校は昭和21年に職業補導所として長野市内に建築科のみで発足し，昭和53年に現在の長野技術専門校に改称され，これまでに多くの技能・技術者を育成し，地域産業界へ貢献してきました。

現在は，「機械加工科」「電気工事科」「画像処理印刷科」「木造建築科」の4科を実施しており，直近の平成30年3月卒業生では，全科100%という高い就職実績を残されています。



長野県長野技術専門校の外観

齊藤さんが学んでいる画像処理印刷科は、長野県内に6校ある技術専門学校の中で唯一、同校にのみ設置されている学科です。最新のパソコンにて各種DTPソフトを使用し、印刷物の原稿やデザイン、写真の加工方法等について学びます。さらに、最新のオフセット印刷機による印刷作業、製本作業についても学び、一連の印刷工程に対応できる技能者として、印刷関連産業への就職を目指します。



画像処理印刷科の実習風景

また、同科では本誌表紙デザイン以外にも様々なコンクールに応募しており、内閣府主催のポスターコンクールで大臣賞を取るなど優秀な成績を取っています。先生方の指導力の高さがうかがえますね。



校長室入口に掲示されている入賞作品一覧

### 3. 受賞者インタビュー

今年度の表紙デザイン募集には全国から99点の応募があり、厳正なる審査の結果、齊藤さんの作品が最優秀賞に選出されました。なお、同校からは川井さんの作品も佳作として選出されています。

訪問当日には、ご多用の中、戸田校長をはじめ、馬場訓練課長、鹿住先生にも出席いただき、校長室をお借りしまして、ささやかながら授賞式を行わせていただきました。その後、画像処理印刷科の実習室をお借りして、齊藤さんにインタビューを行いました。



左2人目より戸田校長、最優秀賞の齊藤さん  
馬場訓練課長、鹿住指導員

#### ー画像処理印刷科に入ったきっかけは？

小さいときは絵や工作が好きで、中学・高校では観光のポスターやパンフレットを収集して眺めているのが好きでした。この科ではそのような印刷物を作ることができ、興味があったドローソフトやグラフィックソフトについても学べます。また、関連する資格も取得できるため、入校を決意しました。

資格については、(株)サーティファイ主催の「Illustrator®クリエイター能力認定試験」および「Photoshop®クリエイター能力認定試験」のスタンダードに合格しました。来週には「Illustrator®クリエイター能力認定試験」のエキスパートにチャレ

ンジします。正直、自信はないですが、学校で受けられますので緊張せずに力を発揮できれば合格できると思っています。(平成31年1月9日合格！)

### —画像処理印刷科のよいところは？

パソコンが一人1台用意されているところですね。それから、実習が多くて楽しいです。特に楽しかった実習は、1学期に受けたデッサンです。「石膏像を木炭で描く」という実習でした。印刷機を扱う実習も楽しいですが、大変の方が・・・(笑)。1台の印刷機を3、4人の班に分かれて動かしますので、事前にそれぞれの役割について相談し、また、いつも同じ作業にならないようローテーションして取り組んでいます。

### —最優秀賞に選出されたと聞いてどのように感じましたか？

ビックリしました。「本当に自分の作品が選ばれたの？」と思いました。自信はありませんでしたが、でも、佳作は取りたいという気持ちはありました。最優秀賞はまったく考えていなかったです。

### —作品の制作期間は？

全体で10日間ぐらいかかりました。一番時間がかかったのは、こだわったグラデーション作業ですね。たくさんの球の一つ一つグラデーションをかけましたし、背景のグラデーションにも時間がかかりました。

週に2日間しか取り組めないため(日によって教科内容が変わる)、授業が終わった後も残って取り組みました。

### —どのようにデザインができていったのですか？

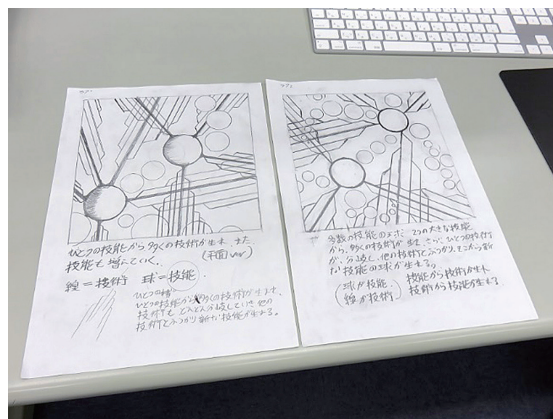
まず、「技術」と「技能」という言葉の意味を調べて、その言葉からイメージしてラフスケッチを鉛筆で何枚か描きました。そして、スキャンしたラフスケッチを下絵にしてドローソフトで描いていきました。

最初はコンセプトを「技能」と「技術」だけで進めていく予定でした。いざ、ラフスケッチと同じ

ものをドローソフトで描いてみると、背景が真っ黒で、グラデーションをかけてもうまくいきませんでした。背景がさみしいと感じ、白い曲線を入れ、さらに明るくして未来っぽい感じを出してみました。制作過程の中盤だったと思いますが、いい感じにまとまり、ここでコンセプトは3つとなりました。



パソコンを使用して説明する齊藤さん



手描きのラフスケッチ

### —作品について先生やクラスメートからアドバイスはありましたか？

もちろん、作品は自分で作りますが、先生から様々なアドバイスをいただきました。アドバイスをいただいたところを調整しながら繰り返し手直ししていきました。

ドローソフトの操作方法を覚えた後、最初に取り組む課題がこの表紙デザインです。そのため、クラスメート間でのアドバイスというのはこの時点ではないですね。そのせいか、集中して制作にのめり込めた気がします。

ー背景の変更が受賞する要因の一つになったかもしれませんがね。さて、選考員のコメントを読まれてどのように感じましたか？

先ほども話しましたが、制作時間の半分以上をグラデーションに使ったので、グラデーションに対する評価がとてもうれしかったです。

ーご家族には報告しましたか？

母親が「すごい！」と言って、とても喜んでくれました（笑）。これまでも「OAC学生広告クリエイティブアワード」等に作品を応募してきましたが入賞できなかったため、今回の受賞は自分にとっても本当にうれしかったです。

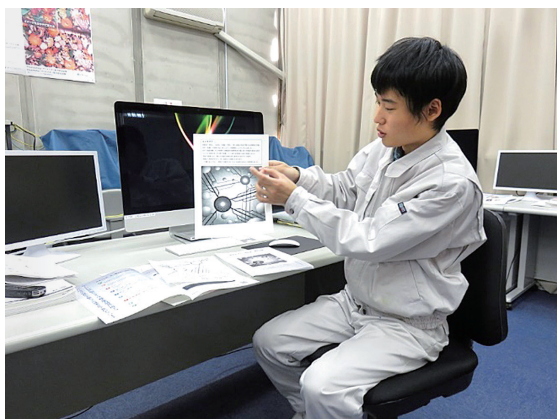
ー最後に今後応募されるみなさんに向けて、一言お願いします。

この作品はコンセプトを3つ（技能・技術・無限の可能性）にして作りました。制作途中でコンセプトを5つほど挙げたこともあったのですが、ごちゃごちゃしすぎてしまいました。そのため、多くてもコンセプトを3つにすると、まとまった作品になると思います。

あとは、あえてバランスを崩してみたりするのもいいかもしれません。自分の作品も最初は左右対称な作品でしたが、平面上の模様には見えなかったため、球の大きさや線の太さを変えて調整しました。

ー訓練中にもかかわらずインタビューを受けていただきありがとうございました。インタビューを通して齊藤さんと先生方の喜びを間近で感じることができ、本誌編集事務局にとっても大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

ー長野県内にはこのような訓練内容の科がないため、齊藤さんはお住まいの松本市から電車で1時間以上もかけて毎日通っているそうです。しかも、これまでに一度も遅刻・欠席がないとのこと。また、遠方から通っている中、放課後も残ってコツコツと作品を仕上げてきました。齊藤さんのまじめな性格が、今回のような素晴らしい作品を生み出したのですね。



コンセプトについて語る齊藤さん